

独立系熱交換機メーカー・

ティラドの新社長に宮崎富夫氏が就任した。エンジンニアとしてホンダで自動車開発を経験した後、家業で経営危機に陥っていた老舗旅館「陣屋」の社長に就任。そこで旅館業に特化したクラウド型基幹システム「陣屋コネク」を開発し、週休3日制を導入しながら売上高を倍増することに成功した。ティラドでは同氏の異色の経歴を生かし、I・Tを活用した生産性の向上に注力する方針だ。

(水鳥 友哉)

変革期を生き残る

「就任にあたっての抱負は「歴史ある会社の代表を務めることになり、身の引き締まる思いだ。当社はチャレンジ、チェンジ、コーオペレー

クリエイティブでない仕事を半減

ティラド 宮崎 富夫氏



ションとスピードを意味する『3C+S』をスローガンに掲げているが、私には特にエンジンの部分を任されていると捉えている。製造業、とりわけ自動車は変革期を迎えている。これからも生き残っていくため、他の業種で得てきた経験を生かして変化させて

いきたい」

I・T活用 of 具体策と課題

「現在は、国内を除いて拠点ごとに基幹システムが異なっているため、情報を共有化しにくく、生産効率の悪化につながっている。陣屋コネクをベースに、生産や原価管理の機能を加えるなど製造業向けにカスタマイズした『ティラドコネク』を開発し、各拠点に導入する。生産性を高めるとともに品質の改善にもつなげる。目標は、クリエイティブではない仕事を半分

に減らすこと。製造業とサービス業で勝手は違うものの、ティラドでもうまくいくはずだ。また、こうした課題は、中小製造業の多くが抱えている。廉価で利便性の高い製品を開発し、今年度開始した4力年中期経営計画『T・R A D E E R』で積極的に外販もしていきたい」

品の見直しは「自動車用は今後も堅調に推移していく。グローバルの自動車生産台数は伸びるし、当社も新製品を投入していく。内燃機関の車両が電気自動車(EV)に変わると単価が低下する傾向はあるものの、EV化が進むことで生まれる熱交換器の需要もある。この4年間は、足元で受注が伸びている製品の生産能力を増強するとともに、今後の需要が見込める環境貢献商品の拡販にも取り組んでいく」

環境貢献商品に力

「新中計では最終年度に売上高を前期比17%、経常利益を同64%増とする成長イメージを描いている。自動車用製

品の見直しは「自動車用は今後も堅調に推移していく。グローバルの自動車生産台数は伸びるし、当社も新製品を投入していく。内燃機関の車両が電気自動車(EV)に変わると単価が低下する傾向はあるものの、EV化が進むことで生まれる熱交換器の需要もある。この4年間は、足元で受注が伸びている製品の生産能力を増強するとともに、今後の需要が見込める環境貢献商品の拡販にも取り組んでいく」

外販も含め基幹システム開発

段変速機用のケーシングレスオイルクーラー、インバーター冷却器などに期待している。オイルクーラーは2021年度までに生産能力を同70%増の年間1100万台、EGRクーラーは売り上げベースで同6割の拡大を目指す。一方、インバーター冷却器は19年に量産を開始し、21年度までに年産100万台の生産体制を整える考えだ」

◇

みやざき・とみお 2002年4月ホンダ入社、同年8月本田技術研究所和光基礎技術研究センター入社、09年陣屋入社、社長就任、14年ティラド社外取締役、17年陣屋社長辞任、ティラドの取締役経営企画担当。18年6月から現職。神奈川県出身、40歳。趣味は旅行。

新社長インタビュー

部品／生産